宗像

毎月一日発行
定価一年 送料共250円
発行所
宗像大社社務本局
福岡県宗像郡玄海町田島
電話 神湊26番

夏季大祭盛大に斎行さる

去る七月三十一日より三日間、恒例の夏季大祭が盛大に斎行された。前日より社殿のみすは新しいものに取り替えられ、まん幕が張りめぐらされて美しく粧いされた。

◎三十一日には、夏越の祭りが執り行われた。前日より楼門と東郷橋畔の鳥居には、地元総代さん方の奉仕によって目もしみるような緑のちがやで茅の輪が舗設された。

当日午後五時、全国各地より送られて来た人形は唐ひつにおさめられ、楼門茅の輪のかたわらに供えられた。

先ず、小野権宮司が大祓いの詞を読み、参列者全員、手渡された切麻によって今までの罪、けがれを抜った。そして、夏越祓のうた

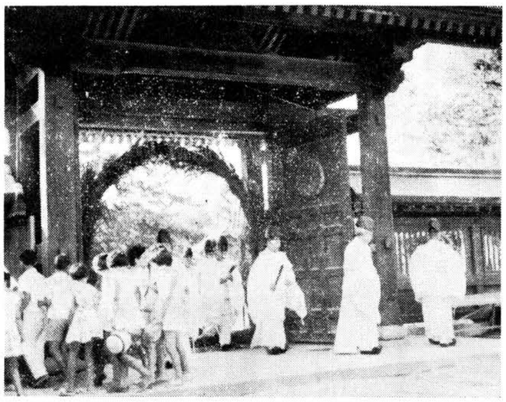
○思ふことみなつきねとて麻の葉をきりにきりても抜ひつるかな
○みなつきの夏越の抜する人は千歳の命のぶと云ふなり
○宮川の清き流れにみそぎせば祈れることの叶はぬはなし

を唱えながら茅の輪くぐりを行った。参列者は、庄村氏子会長始め、氏子の方々及び小中学生等多数であった。祭典終了後、子供達には御神菓が配られた。

午後八時から境内で映画会が催され、ニュース・マンガに続いて松竹映画「敵は本能寺にあり」が上映された。

◎一日、交通安全夏季大祭とあって早朝四時頃から陸続と参拝の車が押しかけた。午前十時、庄村会長、西日本相互銀行社長ら参列のもとに祭典が厳粛におこなわれた。

◎二日、祭典終了の後、午後一時より神賑行事として、氏子中の琴の奉納演奏会が社務所に於ておこなわれた。



写真は茅の輪くぐり

大祭に参列した車々

宗像大社御用達
神輿 祭具 装束
松島神輿製作所
京都市下京区北小路通新町西入
電話(37)八八六九番
振替口座京都一五八九一番

〃御生祭〃計画について
―放生会大祭―

大社では今秋の放生会大祭から新しい形の「みあれ祭」を計画している。これについて大略の計画が大社から発表されたので、以下それをしるしてお知らせすることとする。

昭和三十七年みあれ祭計画

一、意義

みあれ祭は大祭に際して御祭神の新しい御霊をお迎えする行事であるので、古えは「おんなかての神事」（御長妙の神事）として厳修せられていた。（正平年中行事・宗像大菩薩御縁起等に所載）

これは沖島より特産の竹（女竹のように真直ぐな竹）に十尺の紅白の布をつけたものを神籬（ひもろぎ）として奉遷したものであるといわれる。

現在のみあれ祭は境内末社の二柱神社より宗像大神の三体を祈念奉遷して辺津宮本殿内の神前にそれぞれ奉安しているが、現下の世情よりしてこれを沖島、大島、辺津宮の高宮より計三体を奉遷し、特に大島中津宮より奉遷する行事を盛大に斎行したならば、大島及び宗像七浦の漁民が放生会の前祝祭に参加することになり、放生会大祭を名実共に挙郡一致して斎行する意義は極めて大きい。

ここに古儀を参照して〃みあれ祭〃を整えたいと思う理由がある。

○実行計画

一、十日程前に沖津宮より神籬（榊串に箸の長さ程の忌竹を添える）を大島中津宮に奉遷する。

一、右行事迄に中津宮に於て祈念済みの神籬を準備し、右沖津宮神籬と合せて二体を放生会大祭（十月一日～三日）の七日前の九月二十三日前後に大島より神湊迄海上八粁を御座船を奉送する漁船団と共に奉遷する。

御座船及び参加船には浪切大幣を立て、竹竿に紅白十尺の布を流す。特に御座船には「国家鎮護宗像大社」の大幟を立てる。

一、神湊より田島迄は、交通安全の守護神らしく自動車にて奉遷する。先導は宗像警察署の白バイ及びパトカーを動員する。

一、九月三十日夜、辺津宮本殿内に仮安置してあった右二体の神籬を高宮に奉遷、更に辺津宮神籬を祈念の上、三体を辺津宮本殿内陣深く奉安する。

尚、細目は省略するが、この祭の趣旨は、祭儀を古儀に則って復活することと、郡民が大祭に参加出来るようにすることにある。

―◇―

右計画を実行するに当って、神社側から各方面に対して協力方を申し入れた処、何れも双手をあげて賛成して下さいました。即ち、大島、神湊、地島、鐘崎、勝浦、津屋崎、福間の各漁協では「われわれの海の御神様のお祭なら何を措いても御奉仕させて貰わにゃ」という声が聞かれた程であった。門司第七管区海上保安本部並びに福岡海上保安部でも快く協力して下さる事になった。

大島の沖、中両宮奉賛会に於ても全面的な協力態勢ができた。

論説

剣徳と少年指導

本日、ここに福岡県郡市対抗剣道大会を開催するにあたりまして一言御挨拶を申し上げます。戦後国内の様相も種々変化いたしまして、あらゆる方面に於て非常なる発達をとげております。剣道に於ても然り、急速の復活ぶりにはお互い御同慶に堪えないところでございます。郡市対抗剣道大会も回を重ねる毎に盛大になって参りまして、かくも多数の参加者を目のあたりにし、諸君の元気一杯の演技を見ることができますことを私県連理事長として、誠に有難く感謝しておる次第でございます。

願わくば正々堂々と、日頃鍛えられました力量を遺憾なく発揮せられまする様御祈りいたすものであります。

ついては、ここに一言申し上げたいことがございます。唯今、我が国の復興発展ぶりの目覚ましいことと、剣道の興隆についてお喜びのことばを申し上げましたが、一般的に言って、剣道をする者に悪い人間はいない、愚連隊などはいない、ということがいわれております。私共、この点については諸君に対して深甚なる敬意を表するものでありまするが、このことを改めて認識し自覚して、剣道は単に伎倆をみがくだけではなくして、人間をつくることに目的があるのでありますからして、諸君の中には剣道を通じて青少年の育成に非常に努力をしておられる方もありますが、どうか諸君、次の世代を背負うべき少年達に目を向けてやって頂きたいと思います。少年達を、剣道を通じて教化育成することは、国家の最高目的に合致することに間違いはありません。

剣徳に非ずんば皇威四海に振わず、と申します。飽く迄も謙譲であり、そして個人を完成して国家社会の為に尽すことは、即ち剣道修業の目的でもあります。

幸いにして、剣道者に悪者はいない、という世間の定説を、以上私がのべた趣旨によって今こそ実践すべき時であります。来るべき東京オリンピックには剣道も公開実演せられることになりました。剣道には一般のスポーツには無い精神面もありますけれども、我が国個有の剣道というものは一般スポーツの精神要素となっている面は全部備えています。剣道を世界的なスポーツとする為には今後いろいろと問題もあることと思われまするが、ここで一つ奮起して我が国個有の剣道を世界的にしたいものと念願するわけでございます。日本精神の真髄は己れを空しくすることにあります。剣道者にプロがいないのもこの為でありましょう。剣道は切り売りすることのできないものです。何故剣道をするのかと問われて、金が儲るから、などと答える者はいないでしょう。剣道が一般スポーツと異る点は、つきつめればこの辺の所にあるかもしれません。

然らば、金儲けにならぬ剣道を何故にするのか（笑声）と問われても困るのでありまするが、お互い、剣道精神を愛好するが故にやめられない、と答えるほかはありません。世間の利害得失を全く離れて熱中できる剣道というもので結ばれているのが我々剣道者であるからであります。

戦後の驚異的復興のかげには、暗い面もいろいろとあることは諸君御存知の通りであります。話が大分変った方に行きましたが、非行少年の増加の傾向は国家社会のため誠に憂うべき事態であります。

本日の大会にあたって、特に皆さんにお話をして少年育成のために御協力を願いたいという気持から以上のことを申し上げた次第であります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

では、今日は精一杯戦って下さい。

福岡県剣道連盟理事長三角卯三郎氏の談話を筆録。文責編輯部

阿蒙少言

交通機関の相つぐ大事故に新聞はどこかにまだスキがあると報ずる。食うために働いているのだ、他人に奉仕しているのではない。悪ければ法の処分を待つだけだ、との言分を聴く限りまだ大事故は続く、多数の犠牲者が出る。斗争々々とおだやかならぬ腕章や貼紙が年中行事のこの頃、食うために働くと云う愛情の亡失は責任観念や他人の幸不幸を二義的なものにしている。それがスキだ、スキだらけだ○耳はあるが聞えない、目はあるが見えない。そこに人間は誤解を作り独善を生む。横領詐欺その他諸々の汚職は妻子の姿が見えなくなったり、世間の声が聞えなくなった時に起る○富貴の車輿に装い、栄華の夢殿に遊ぶ者が、これに満足しないとき、神秘を求めるようになる。心外に神秘なし。これが愛情に走らせ芸術に没頭させ、時に一足飛びに死に躍れさせる。○赤銅御殿の栄華を逃避して宮崎龍介に走った柳原燁子夫人、もう古い話だが一切の桎梏を破棄し冷厳なる制裁を甘受しても、一瞬の人間の信実を掴みたい血涙の衝動。それは万葉が訓えたか、源氏に学んだか○神社滅びるとすれば、その命脈を断つ者は衣冠のドロ神主。仏寺絶えるとすれば、その法燈を消す者は桑門のニセ坊主。敵は常に内にあり○吉良邸夜襲の義士は四十六人大石良雄等二三を除けば概ね身分は低い。幕末奔走の志士も大身は少い。いつの時代も大業を成すもの富貴にあらず権門にあらず。貧微の家に生れたことの幸を、昼中鉄工場にアルバイトする倅に説けば笑って答えない○婆さんよ、そろそろ孫達が来る頃だ、御馳走を作らねばなるまい。爺さんよ、そろそろ娘の愚痴が出はじめた、黙って聞いてやることにしよう。

（白雲）

第十七回 宗像大社献詠歌会詠草
八月一日於社務所詠草到着順

神湊 隣船 俊
刑務所に仕事を励む囚はれの此の人達の窓の青空

戸畑 伊規須ゆき
岡の水門芦屋の浦曲ゆきにゆき千年前を波に聞かむとす

吉武 立石ろせの
玄海の波よせ返す岩壁に枝面白き磯芝しげる

田島 神戸 幸夫
土用入りの焼くるが如き土砂を這ひ働く蟻は気根たくまし

香椎 桜井 秀
初夏の核心にふれて店頭のトマトが赤し微風よぶ街

〃 桜井 ツ子
里川にその影ゆれてほの白き荒地野菊の花も昏れたり

江口 辻野 開造
いそがしき身なれど嫁はせがまれて蛍かごあみて吾子に与へつ

戸畑 田中ハツセ
日課表続かぬ子等の集りてテレビを見つゝ笑声出す

勝浦浜 永島 文子
久々に鏡に向ひおどろきぬ笠の〆緒のあとの残るを

吉田 占部 由久
めしひたる人のためにと暑き日も机に倚りて点筆にぎる

吉武 立石 昇
世論湧く学力テストに父と子が異う立場で動くは悲し

勝浦 永島 計七
終日を鶏舎に佇みもの思ふ鶏も梅雨を永しとかこつか

福岡 江崎 琴
苔むしろいたはりつゝも掃く庭にしづごころなるやすらぎの日々

沖島 前田斎之助
白馬の駈け来る如き沖の島波の言葉の面白きかな

田島 宇都宮 淳
大小の船数知らず群れてをり見はるかす玄海の大海原に

田島 太田 可愛
七夕の星を仰ぎて佇ちしとき想ひはるけく松風のゆく

福間 岩崎 和荘
雨あがり翁は稲田巡りつゝもぐらの穴をふさぎてぞをる

田島 小野 迪夫
思ふことたゆたふごとく森の上に霧雨灑ぐ日はありながら

津屋崎 麦野 時雄
さみだれの雨雲ひくく垂れこめて間近き山をまぼろしと見る

吉武 高山徳七郎
船を去りバスに乗れどもまなうらに映りて美し九十九島影

深田 中野 節子
草取りを終へしばかりに音たてゝ夕立来れば胡麻乱れ伏す

吉武 原田 リノ
かむり傘手甲も棄てゝ身も軽く陽の入りし田に一景気出す

田島 吉武 俊次
波あらき大島渡海に思ふかな万葉歌人の祈る心を

名残 竹原 円
捨てて来た猫の子がまだついて来るこゝちするかも夕べの路に

東京 永島 潤
母逝きてあけくれに吾が過したる故里の海に夏は来にけり

宮田 片山 朔子
失はんとする自己見つむる一つの術か真昼騒音の街に身曝す

内浦 長畑 房江
遠き遠き思ひ出の中梅雨の花あじさい咲きき町裏の道

門司 永島 哲夫
夏潮を切りて涼しき巡視艇の左舷はるかに若戸橋赤し

戸畑 花田 道子
雨洩りの汚染も乾かぬ我が室に又新しき雨のふりつぐ

戸畑 山磨 昌子
一什事おはりて涼をとる時にカナリヤせはしく餌を求め啼く

宮田 北原きみ子
黄昏るゝ山畑に来て草取れば無気味にひゞく食蛙の声

原町 中村 幸
孫子らも集ひし叔父の三十年忌充ち足りし叔母のみなを笑はす

田島 滝口主米蔵
長梅雨の雨間を縫ふてとぶつばめいづこに羽根を休め居らむか

☆ ☆ ☆

宗像談話室

月参りの心境

「あなたは必ず一日十五日に月参りをされますが、どんな心境でお参りしておられますか」

質問されている人は宗像町長高山勉氏、質問している人は宗像大社の職員である。或る時或る所でこんな会話が交わされた。

「そのことですか、それは私個人のことですから余り人に云うべきではないかもしれませんが――まあ、公務の寸暇にお参りさせていただいておる訳です」

「どんな心境か、それを承りたいですな」

「いえ、何もありません。一日十五日にお参りするのは、毎日でもお参りしたいのですが、それができませんので、余程のことが無い限り一日十五日だけはお参りさせていたゞいております。心境、といっても何もありません。寸暇、といってもほんの一分間ぐらいのものですが、神前に額哭いて〃無念無想〃の時間を持ちたいと思うわけです」

「それでは、別にお願いごとをされる訳ではないのですね」

「はい、お願いごとをするとなると〃無念無想〃という訳にはいきません。自分が一地方の行政首長として私心なくつとめる以上、個人的にも公人的にも神様にお願いごとをするのはよろしくないと思います。出光さんのおことばではありませんが、〃無私〃の心境で精一杯働く私が、月に二回でも無念無想で神前に額哭くならば、必ずや神様がみそなわし給うと信じます。いや、みそなわし給う、などと考えることすらも不純なものかもしれません。本当は、私が毎月大社と部落の氏神様の八所宮にお参りすることは誰が知ろうが知るまいが、そんなことは意識していません」

「それでは、宗像町の町民の中にはいろいろな主義主張の人達がいると思いますが、町長さんは、そういったことに対処する手段として月参りをされている、という訳でもないのですね」

「そうです。私の月参りを政策的なものに利用する、などとは毛頭考えていません」

「そうすると、神社の氏子というのは氏子区域の中にあらゆる階層というか、あらゆる立場の人を含みますが、それらが全部、律平等に大切な氏子、と考えていますが、町長さんの立場にも可成り似通ったものがあるわけですね」

「そうです。特に新時代の教育を受けた青年達が新しい世代をつくりつつあります。これらを温く理解してやり、また国造り村造りのために彼等の自覚を促してこれを援助してやらなければならん、と思っております」

「それで町長さんの〃月参り〃の御気持がよくわかりました。新時代の町長さんの心の持ち方というものは難しいものですね。われわれ神職の心の在り方、という事についても大層勉強になりました。有難いお話を伺ってありがとうございました」

「いえ、どういたしまして。私が一個の日本人として、どこまでやれるかわかりませんが、運命の成り行きは神様にお委せして、それこそ〃無私〃の心境を持ち続けて励みたいと思う訳です」

× ×

このようなことを本紙上に発表することについては高山町長さんは好まれないであろう。全く個人的な心境であるので編輯部でもこれについては論議があった。だが一地方行政の首長人としての「心構え」としては宗像会の皆様にも益する所が多大であると思うので、敢てここに採録したものである。同氏は相変らず「月参り」を実行しておられる。神前に於て、何も考えずに唯〃祈る〃姿は尊いものがある。

× ×

（文責編輯部）

お琴の奉納演奏会

夏季大祭の第二日目の八月二日、田島氏子中の琴愛好者二十三名によって奉納三曲演奏会が催された。

午後一時、一同拝殿に於て奉告参拝の後、社務所広間に於て演奏会が開始された。

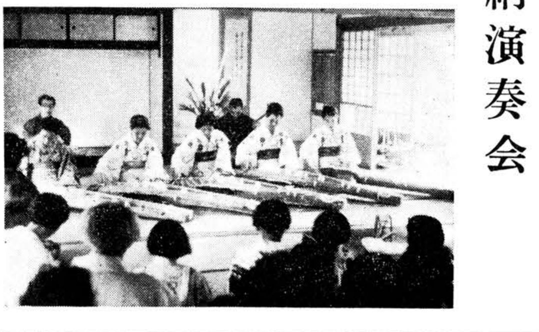
演奏曲目は六段、千鳥、祭りの太鼓などのほか童曲、交声曲を交えて約二十曲、尺八、三絃の合奏の音も賑やかに約三時間、妙なるしらべの数々が社務所に溢れた聴衆を魅了した。

たとえささやかな集りでも、事ある毎に神前に奉納するという真心が嬉しい。

お琴の関係者に対してここに御礼を申し上げます。

きっと宗像の大神さまは喜んでお受け下さったことと思います。

× ×



九月祭事表

一日 月次祭 風鎮祭 午前十時

かざしづめのまつり、稲の結実前の大事な時期に台風其他の悪天候等に災害を被らないように神に祈願する祭

十五日 月次祭 午前十時

廿一日 宮地嶽神社大祭

旧摂社宮地嶽神社の秋季大祭、本宮より職員が献幣する。但し本年は都合により遠慮する。

廿四日 秋分祭 午前十時

春の春分に対してこの時期に行われる。秋の彼岸の中日にあたる盆祭とあわせてわが国で三度の祖霊をまつる大事な機会である。

九月の交通訓

○安全運転心で運転

暑さのなかで猛稽古

―宗像大社剣道部―

去る七月二十一日より一週間、田島小学校講堂で宗像大社剣道部の高校生、中学生及び小学生の良い子達および七十余名（女生徒八名を含む）が集まって烈しい土用稽古をくり広げた。

この間、部員は朝六時半のラジオ体操に参加し、七時より講堂を手に手に雑巾を持って拭き清め、整列神拝の後一時間半、一部は防具を着用稽古に入り、二部の良い子達は、竹刀で基本の練習にはげんだ。稽古終りの日には、それぞれに皆勤証と鉛筆やノート等のご褒美が渡され、午後からは大社で仕立てたバスに乗って全員神湊に浜遊びに出かけた。海水浴の合間にリレー、砂遊び、西瓜割りなどを催し、少年達も大喜びではしゃいだ。

浄車場建設用地きまる

出光興産株式会社のきも入りでこの程当大社境内地に浄車場が建設される事になった。

福岡から門司へぬける国道三号線から当大社へ参詣する道路は二筋あるがいずれも舗装されていないので、雨降りの時など、せっかくの新車が泥できたなくなり、神前でお祓いを受けるのが恐れ多いと云う参拝者の声がある。之を聞いた出光興産が、浄車場（洗車場）を建設し、宗像大社に奉納して参拝者の皆さまの便宜に供したいと云うので、この程県道寄の昨年買収済の土地に建設される事に決定した。

黄金鯉奉納

―村山田の吉田富士造氏―

黄金鯉の養殖で有名な宗像町村山田の吉田富士造氏が、この度宗像大社社務本局の中庭の御池に黄金鯉を奉納された。天下の珍魚が悠々と游弋している姿は見事である。特によく飼い慣してあるので、この鯉は人の手から直接に餌を食べる。また池の水が澄めば澄むほど色が冴えるといわれる。

右のほか、社前の心字池の菖蒲園造成が済む頃（多分来年の春頃）には数千尾の黄金鯉が奉納される筈である。

吉田氏は、先代の荒五郎氏が中間市の有志と共に約三十年前に深田部落の日向川からの手水用水施設を奉納された事蹟があり、現当主も既に右手水用水の水道管補修費を寄附しておられる。そして此の度は又前記の黄金鯉の奉納となったのである。

社務日誌抄

七月二十四日 宗像警察署長外二名来社。福岡更生保護婦人会百名参拝。

七月二十八日 国大柳井講師他参拝

八月一日 吉田婦人会一同境内清掃奉仕

八月二日 難波江講師大阪府南河内郡千早における日本学協会第九回夏季鍛錬会参加の為出張。

八月六日 職員二名志賀島神社へ助勤す。東京温泉許斐社長婦人一行八名参拝。

八月七日 門鉄局長参拝。

八月十日 香椎宮木下宮司来社

八月十二日 筥崎宮、池浦権宮司来社。

八月十三日 難波江講師四国高松に於ける日本教育協議会第三回全国教育研究大会に出席の為出張

八月十四日 職員一名熱海伊豆山神社へボーイスカウト講習会に参加。

八月十七日 全日本剣道連盟常務理事渡辺敏雄氏、福岡県剣道連盟理事長三角卯三郎氏他正式参拝

八月十八日 出光興産第六宗像丸船長土屋大作氏参拝。

八月十九日 福銀東郷支店次長転任挨拶の為来社。

八月二十一日 職員一名大島へ出張、奉賛会 大島漁協、大島村長らと〃みあれ祭〃打合せ、協力方を懇請した。

八月二十三日 職員二名鐘崎、神湊、勝浦、津屋崎、福間各漁協に出張〃みあれ祭〃の件懇請

八月二十四日 職員二名地ノ島へ出張〃みあれ祭〃につき漁協に懇請。

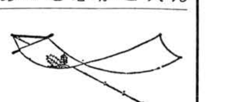
八月二十五日 職員福岡へ出張、海上保安庁、報導機関等訪問。みあれ祭につき協力申入れ。

東京大塚巧芸社梅田専務来社

八月二十六日 出光興産徳山製油所社員十五名特別参拝。小野権宮司県警本部長より少年補導員を委嘱さる。大塚巧芸社梅田専務、職員と共に写真撮影のため大島へ出向。

剣道連盟幹部特別参拝

八月十七日夕刻、来福中の全日本剣道連盟常務理事渡辺敏雄氏及び福岡県剣道連盟理事長三角卯三郎氏ら一行が宗像大社に参拝された。大社の歴史的由緒の重大なること、大社の少年育成の為の剣道部の活動状況等を聞かれ、大層喜んで退社された。



鐘崎（かねのみさき） (9)

山下半可 作
深田無庵 画

修羅 (一)

それから間も無く、天正八年八月、豊後の大友宗麟義鎮は、先年より伽羅姫を申し受けたいと迫ったのを断られ、それを理由に豊前、豊後、筑前筑後の諸国を糾合し、大挙して宗像神領に押し寄せた。

いつか、大宮司興氏が侍臣らに「難題をいうて来ておる」といったことが、ここにこのような形で現われて来たのである。神領内にあらぬ風説が立っていたのも、今にして思えば故なきに非ず、といった訳であった。

あの梵鐘沈没以来伽羅姫は病臥し、小早川家では何かと遠慮をして婚姻の日取りを延ばし続けている。宗麟がこの機微を窺っていたことには間違いがない。宗像家と小早川家との間に何か確執でも生じたものと判断したのであろうか。

八月十一日（旧暦）未明、放生会大祭の仕度でごった返している田島に、郡の東北部の砦、城山の守将深田伯耆守氏致の許から早馬が届いた

「大変でございます。城山に大友方の軍勢が押し寄せてございます。城内手薄なれども直ちに応戦、唯今のところ外郭に敵を引き付けて遠矢を射かけておりますが、敵はなおも続々と後続部隊が進んで来ておりまする故、至急援軍をたまわりとうございます」

一気にこう告げると、早馬の使者は大宮司邸の玄関前にがばっと伏した。

「なにっ、大友が？うーむ、いよいよ来おったか。そうか、道理で――して、敵の旗印は？」

興氏が問うと、使者は一息ついたその顔をあげ、きっと気を取り直し、

「大友のほか、これにくみした立花、奴留湯、高橋の諸勢と覚えました。およそ、その勢五千余騎」

「よしっ、余が直々参る。直ちに出陣の用意をいたせ、手筈は常々いたしてある通り」

かねて期するところがあったもののごとく、決心した興氏の声がして、命令が次々と下達された。

宗像大宮司興氏は武将としても名将であった。寄せ手が城山の城をまだ包囲しきらぬうちに、彼の先鋒嫡男氏佐と重臣寺内美作守尚俊は機を失せず敵の真唯中に突込んでいた。

こうして先ず敵を二分した味方は、あとからあとから馳けつける味方の援軍に勢いを得て、更に敵を四分八分し、その日の昼頃には主戦場は城山と金山との間、城山と戸田山との間（今の平等寺及び吉武口西郷）の二つに分断された。

残暑いまだきびしい秋の日のもとに、双方共彼我の屍を乗り越えて戦う甲冑刀槍のきらめきと打ち合う音が入り乱れ犇いていた。かくて、さながら修羅と阿鼻叫喚の巷と化した戦場に漸く午後の日がかげる頃、先頃まで轟き渡っていた鯨波の声が遠のいた。引き分けたのである。

興氏は早速部下掌握の為に味方の将兵を城山に集結させた。味方の損害を調べてみると、総数二千六百騎のうち七百名が犠牲になっていた。まだ戦う余裕がある。恐らく、この分では敵の損害は我に数倍するであろうと思われた。城将深田伯耆守は、御大将興氏直々の応援に感泣して喜んだ。

興氏はそこで一夜の籠城をした。夜中、物見の報告によると、敵は夜のうちに城山の包囲を完了し、その後続部隊はなおも折尾、直方の街道を進んで来ているとのことである。

「昨日のうちに手配して置いた許斐城、吉原城、飯盛山城の援軍は如何いたしたるぞ」

「はっ、御下知の通り隠密のうちに、今朝迄に総勢四千二百騎、三郎丸、赤間、またその東方、富地原の線に進出しております。そのほか、敵の退路には宗像党遠賀の衆が控えております」

「そうか、よしっ、それで充分、あとは天祐を待つばかりじゃ。さて伯耆、近う寄れ」

「はっ」

密偵の報告を確認した興氏は、伯耆守と暫く密談をした。

「えっ、それでは殿、打って出る訳でございますな。それはよろしゅうございましょう。しかし南側はそれでよいとして、北側の備えが無うなりますが、それは如何相成りましょうや」

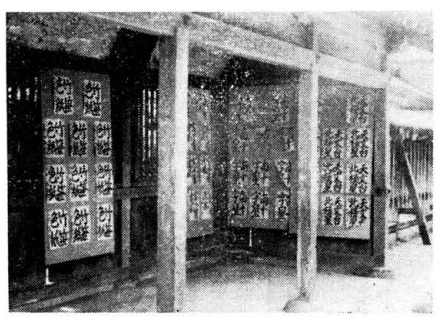
「うむ、そこじゃ、北廓に三百名程配置して、百名を一隊として三隊を編成する。この三隊が一隊ずつ前面の敵に、夜明けと共に遠矢を射下ろして敵を牽制するのじゃ。この指図はそこもとがとれ。よいか、あとは今朝、払暁を期して打って出る。これが成功すれば赤間、富地原の線にいる味方がわれわれを追撃する敵を挟み打つ、という段取りじゃ」

「は、承知仕りました。なれど、北面の敵に対してはまだ懸念がございますが」

つづく

中津宮たなばた揮毫会

―郡内の小・中学生が多数参加―



◎去る七月二十三日中津宮七夕揮毫会が大島でひらかれた。これは大島中学校の大隅正義先生の格別なお世話によるもので、この日、父兄同伴で参加した小学生、中学生はおよそ千三百名余り、大島・中学校の教室は墨をする父兄達や懸腕直筆で下書を浄書する良い子達で活況を程した。清書は中津宮に於て受付られ、審査の先生方も汗だくで採点し、評点は、最優秀賞、特選、金賞、銀賞に分けられ、左の二名が最優秀賞に選ばれた。

大島小学校六年生　大隅かつ子
大島中学校三年生　長谷川和代

特選は左の通り

吉武小学校　一年生　たに口みちたか
大島小学校　二年生　中村ゆきえ
赤間小学校　三年生　伏貫さえこ
大島小学校　四年生　村上康子
大島小学校　五年生　河野月子
吉武小学校　六年生　花田幸子
中央中学校　一年生　竹内礼子
大島中学校　二年生　丸井一義
大島中学校　三年生　板矢亜子

参加した良い子達には、博多の麻生藤市氏の骨折りで博多商店街より寄贈された数々の賞品が久保宮司より手渡された。

参加者の作品は、中津宮廻廊にはりめぐらされ、献書祭が執りおこなわれた。

◎中津宮七夕祭行事

八月六日（旧七月七日）七夕祭が、盛大に斎行されました。これは、末社の牽牛・織女社が中津宮参道を挟んで向い合せに祀られ、その間に「天の川」と呼ばれる清流の傍で斎行されるのです。祭壇には、揮毫会の献書、着物を型どった千代紙、色々の願いごとをしるした短冊等が奉納されます。

祭典後「七夕踊」が島の未婚の娘さん達六十余名で二重の輪を造り、団扇片手に賑やかに始められました。今年は特に今春、氏子の方々より奉納された、神紋入の提燈が惣代さん方の斡旋で、第一鳥居より踊の広場を通し神門に至る間に点ぜられ、神域の緑濃き夕闇に映え、又清にゆらめき昼間の酷暑も全く忘れさす一刻で、オトギの竜宮城の再現を思わしめた程です。

このような、七夕踊のは民俗伝承行事で文献には見えますが、全国的に今は、殆ど絶えており又「天の川」と呼ぶ川を挟んで、牽牛、織女神社を祀りしているのは、本当に珍らしいことで、大島では年々、この行事が盛んになる事は、大島の氏子の皆様と共に嬉しい次第です。将来も尚大切に守り続けるよう努力したいものです。

八幡宗像会
夏季総会

七月一日正午、安永渡会長外百名の会員が宗像大社に参拝した。正式参拝の後、一行は神湊の魚屋旅館に繰り込み終日歓を尽した。大社からは久保宮司、庄村氏子会長、立石副会長が参加して盛会であった。

揮毫会に参加して

田島小学校三年父兄

揮毫会の前夜よりはしゃぐ子に、そわ〳〵と誘われて、あれやこれやと道具の準備に何時か自分が、会に参加するような興奮を感じ、夜も眠れぬ思いでした。

揮毫会の朝、神湊では各小中学校の生徒や、付添の父兄で雑踏しました。後で聞いたのですが、大島の小中学校の先生、役場の方、神社の惣代の方々が、わさく、神湊に来られよく整理に当られ、誠に快く私達を大島まで運んで下さったのだそうです。

担当された方々に心よりお礼を申上げます。

さて揮毫会が始まり、端でやきもきして居る父兄を尻目に、静かに、のびゝと無心に筆を取って居る姿は、やんちゃな我が子かと疑う程で、習字の上手下手はさておいて、会でなくては見られぬ、我が子の態度に胸がいっぱいでした。

私は二年目の付添で大島に来たのですが、特に有難く思ったのは、小学校で清書したのを中津宮様で受付けて下さった事です。

それは昨年までは学校で清書し、それを先生が纒め神社で審査されたそうで、余程自信のある父兄でなくては、中津宮さんに行った人は少なかったろうと思います。

実は私も先生に成績の結果を、お願いし公民館で昼食をすませ、子供と海水浴をし、遅くなっては船も混む事だろうと思い、お宮にも寄らず、帰ったものです。

郡内に住んで居るので、何時でも詣られる気安さで、お詣りして無い人が多いのではないかと思います。

今年久しぶりに中津宮様に参拝し森深き神域にひたり、始めて揮毫会に参加した有難さを、しみ〴〵感じました。

拝殿に飾られた賞品、子供達は、幼な心に来年はと思う意慾が湧いた事だろうと思います。

最後に一寸、いやな事ですが私達は、石段の右側の涼しい処で食事をしましたが、神社の境内、若しくは林内で海の見える処で、食事をされる建物が有ったならば、参加した子供及親達もどんなに有難く思う事でしょう。

そうなれば揮毫会は盛大になるのではないでしょうか。

急には無理でしょうが、近き将来のそうな施設か建物を是非望みます。

七夕揮毫会に於骨折りの方々に厚くお礼申上げると共に右のような建物を具々もお願い致します。

町村往来

◇宗像署異動…1日付で発令。▽土穴駐在所（赤間）木村敏春▽福間派出所（直轄）石丸満照▽赤間駐在所（福間）野田博之

◇中学生夏季農業講座…1日から三日間宗像町池浦県伝習農場では県内農村地方の中学生五十人を集めて実施。期間中は農機具の操作実習、講義、水泳、キャンプファイヤーなど。

◇宗像町公民分館長、分館主事講習会…1日午前9時半、野坂公民館。講義、発表、分科会など。

◇養老施設慰問…宗像町赤間校区婦人会の森田会長らはこのほど同町緑風園をたずねて下着類などを贈った。玄海町岬校区婦人会の松本会長ら会員もお菓子などと贈って慰問した。

◇民謡講習会…2日午後1時、津屋崎町勝浦小学校講堂。

◇研修会…2日午前9時半、玄海町岬小学校。小中学校PTA会長研修会。児童、生徒の校外補導で警察側と懇談。

◇映写技術者講習会…4日午前9時、町村会館。町内各公民分館の技術者を集めてスコープ映写について講習。

◇宗像高校同窓会総会…5日午前10時、同校講堂。

◇郡青年団新役員…同青年団ではこのほど総会を開き、つぎのとおり新役員を選出。▽会長早川恒美（玄海町）▽副会長今丸定（福間町）三苫春日（津屋崎町）ほか十九人▽理事田中一彦（宗像町）ほか十九人

◇宗像町養豚組合発足…6日同組合を結成、組合戸数百三十八戸、新役員つぎのとおり。▽組合長田中富行（大井）▽副組合長和田国松（名残）▽会計森下敏之（大穂）▽監事山出博（赤間）花田幸作（吉武）▽顧問高山町長ほか八人▽評議員赤間、南郷各校区三人、東郷、河東、吉武同二人。

◇バン食い競争…7日福間海水浴場で町観光協会主催、西日本新聞社後援で行なわれた。コレラ騒動でひとゝころにくらべるとお客も少なかったが、こどもたちがわれもわれもと出場、にぎやかだった。

◇郡婦人会長会…9日午前9時半、町村会館。

◇スイカ割り大会…11日午前10時、福間海水浴場。

◇バレー選手権大会…19日午前9時宗像高校。参加範囲は青年男女、教員、壮年男子、クラブ組織の五班。9月23、24両日福岡市で開かれる県民体育大会出場の郡代表決定をかねる。

◇生け花講座…11日午後8時、津屋崎町青年研修所。講師は上夏君子さん。

◇大島から骨材積み出し…日本セメント会社（旧浅野セメント）は大島村岩瀬地区で生コンクリート用の骨材になる石の現地調査をしていたが、このほど会社と村当局、地主側とのあいだで売り渡しが成立した。原料は大島から門司に運び、海上輸送するが、来年夏ごろまでに生産に乗り出す見込みだ。（西日本新聞より）

宗像大社御用　綜合印刷
有限会社 大和印刷所
宗像郡宗像町東郷　電話東郷27番

安永渡平氏八幡化学社長を辞任

八幡宗像会長でもある安永渡平氏は今回八幡化学社長を辞任され同社相談役になられた。顔後は郷土後進指導に尽粋される由、御自愛を祈ります。

赤間小学校の先生上京

先頃全校の先生方四名が、同校出身の出光興産社長出光佐三氏の招待で上京した。例年のことであるが、今年は女の先生方ばかりが上京、教育資料見聞と東京並にその周辺の名所旧蹟等を見学した。

消息

「宗像」毎号御恵送に有難う存じます。多彩な内容、民族のほこり、神社信仰を基調としつつ、肩のこらない記事をミックスして読者をして次号を鶴首せしめるものがあります。特に民話、寓話など、まことに結構です。御礼方々皆々様の御健勝を祈り上げます。

（黒木権禰宜宛）

貴誌毎回御恵送いただきまことにありがとう存じます。父則吉が近くなり、とかく故山との縁がうすくなりがちである事に気がとがめて居ります。御誌が伝えて下さいます宗像のたよりをなつかしく嬉しく拝見して居ります。号を追うて編輯に味が出、興味を増し、殊に最近のものは団扇の美しさまで内容に光をそえて来て居ります。御苦心の程御察し申すとともに益々御発展を祈り上げます。

（高知市）八波直則

盛夏の候御一統様益々御清栄の御事お喜び申上げます。

「宗像」毎号御恵送に有難く拝受、早速、むさぼり読みました。この度編集の方を若い方にゆずられた由、生みの親、育ての親だった貴殿の御功績に対し、心から敬意を表すると共に、人生につき御苦労に対し、深く感謝致しました。

夏まつりの図案、よく出来ていますね。感心致しました。久保宮司も御健勝の御様子よろしくお伝えに結構です。御礼方々皆々様の御下さい。

（佐賀）雪竹　皎

（小野権宮司氏宛）

「宗像」有難く拝受、早速、むさぼり読みました。この度編集の方を若い方にゆずられた由、生みの親、育ての親だった貴殿の御功績に対し、心から敬意を表すると共に、人生につき御苦労に対し、深く感謝致しました。

夏まつりの図案、よく出来ていますね。感心致しました。久保宮司も御健勝の御様子よろしくお伝えに結構です。御礼方々皆々様の御下さい。

（東京）井手誠三

拝復　炎暑の折柄御高配を賜わり添う存じます。当方御陰様で職員一同健在何卒御放念願い上げます。中津宮祇園大祭に御奉仕の貴影を祇上に拝し、なつかしんで居ります。

（目南市）別所猶一

宗像伝説　その十九

宗像の鑑

そのかみの宗像家の居城、白山城（孔大寺山と金山の中間）下の山田の里に宗像家の重臣吉田和泉守一天文、弘治頃の人一の末孫吉田吉十氏の三男として生れた貞蔵氏は外柔内剛の人物でありました。

明治の初年頃、陸軍の幹部を養成する教導団に入団、卒業の後は伊予の松山第二十二聯隊に将校として配属され、前途有望の青年将校として嘱望されていました。

明治三十七、八年の日露戦争には満州第三軍の乃木将軍の麾下に中隊長として参加、乃木将軍の信頼最も厚く、文字通り難攻不落の旅順攻撃に加わり、東鶏冠山の戦、岡市で開かれる県民体育大会出場の郡代表決定をかねる。

◇生け花講座…11日午後8時、津屋崎町青年研修所。講師は上夏君子さん。

◇大島から骨材積み出し…日本セメント会社（旧浅野セメント）は大島村岩瀬地区で生コンクリート用の骨材になる石の現地調査をしていたが、このほど会社と村当局、地主側とのあいだで売り渡しが成立した。原料は大島から門司に運び、海上輸送するが、来年夏ごろまでに生産に乗り出す見込みだ。（西日本新聞より）

写真は松山市役所社会教育課大出茂氏の御好意による

亡父の墓前で、松明を焚いて一夜の伽をすることは私共の胸にそくそくと迫る或る感情を持たせます。

今の戦後の教育を受けた若い人達にとってこんな行為はどのように感じられるでしょうか。きっと胸の奥底で同感するものがあるに違いないと思うのです。吉田貞蔵氏は若くして戦死されたために、沢山の記録となる程の事蹟はありません。しかし、前述したような断片的な事柄だけでもその人柄が偲ばれるではありませんか。「宗像の鑑」と題してここにしるしたのもその理由からであります。伊予の松山には当時の聯隊葬を行った吉田貞蔵氏の記念碑があると聞いております。余程当時の松山の人々に慕われたのでしょう。筆者が御紹介しないと永久に忘れ去られると思い、敢てここに採録させていただきました。

（T）

郷里に帰省していた時の或る日、宗像から遠賀附近に猟銃を持って狩猟に出かけました。とある山中の茶店で一杯の茶を出された時、立つ時に一円札（今の五千円位にあたる）を置いて帰られたので近所の評判になったことがありました。

また老父君吉十氏の何周忌かに当時小倉刑務所の監守長をしておられた令兄等と共に、亡父の墓前に於て松明を焚いて一夜の伽をされている姿を筆者は子供ながらに印象深く眺めたことを未だに覚えております。

（了）

物質尊重より人間尊重へ（その十）

出光佐三

（前号につゞく）

資本主義でも、共産主義でも、中立の第三国から見れば、いずれが良いとも悪いとも判断の仕様がないのである。現在は資本主義は社会主義化してきたし、共産主義は資本主義化してきた。おそらく四、五十年の年月を経過したならば否応なしにいっしょになって、残るものは感情問題、我欲、闘争のみとなるだろう。それゆえ、両者のそれぞれの話を聞けば、どっちもどっちと思われる。それはいずれも物質尊重という土俵の中の感情的の争いであり、利己我欲の派閥争いにすぎないからである。物の世界というものは、その最後の終着駅は結局対立闘争である。どんなに努力しても、この対立闘争の枠内から抜け出すことはできない。この対立闘争の土俵の上で、資本主義と共産主義とが喧嘩しているから、理論的には、中立諸国も態度をはっきりさせえない。結局現在の世界の混乱に対し、解決のつけようがないということである。しかし、物質尊重か人間尊重かということになれば、中立諸国の態度も割り切れると思われる。

また、国内における主義上の争いから起った労使の対立も同様に滑稽なものである。はじめは資本家の搾取から免れんとして労働組合が起こり、労資の対立といわれていた。ところがいつのまにか資本家の〃資〃が使用者の〃使〃となって、現在は労使の対立といわれている。これは戦後日本においても経済事情が改革され、所得の分配が公平になって大衆が恵まれることとなったし、税法その他の事情も加わって、いわゆる資本家とか、金持というものは出来ないことになっている。それでいつのまにか資本家の〃資〃が使用者の〃使〃に変わったものと思われる。かりに理論上からいって資本家と対立すると仮定すれば、これは大衆資本家であるから、労働者の内輪喧嘩であり、あるいは自分と戦っているということになるだろう。それゆえ労資の対立ということは現在ではありえない。それでは、労使の場合はどうであろうか。

昨日の組合員は地位の昇進によって明日の使用者側となる。それゆえ、労使の間には本質的な区別がなく、仮定的の争いであり、滑稽至極である。

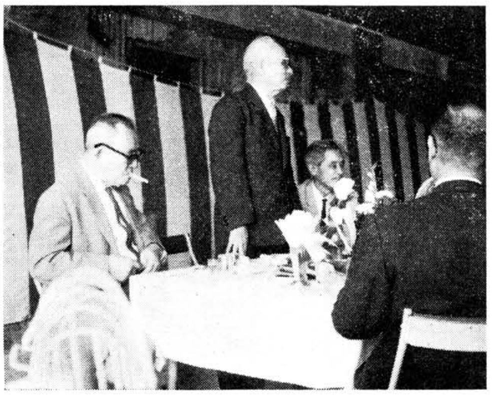
人間尊重のわれわれからみれば、この間の真相がよく見えるのである。彼らをして、対立闘争の土俵の上から人間尊重の台上に上ってくるように指導し、誘掖することが、われわれの仕事ではないかと思われる。

尊重すべき人間は愛の手で育つ

純朴なる青年学生として、人間の尊厳を信じて、「黄金の奴隷たるなかれ」と叫んだ私は、これを実行に移して、資本主義全盛の明治、大正時代においては、人材の養成を第一義とし、次いで戦時統制下においては法規、機構、組織の奴隷たることより免れ、占領政策下においては、権力の奴隷たることより免れ、独立再建の現代においては、数の奴隷たることより免れえた。また、あらゆる主義にとらわれず、資本主義、社会主義、共産主義の長をとり短を捨て、あらゆる主義を超越しえた。かくして五十年間、人間尊重の実体をあらわして、「われわれは人間の真に働く姿を顕現して国家社会に示唆を与える」との信念に生き、石油業はその手段にすぎずと考えうるようになったのである。

それならどうしてそんな尊重すべき人間が出来たかということなのであるが、これがまことに簡単である。簡単であるが実行は甚だむずかしいことである。五十年前、私が門司で仕事を始めたときに、優秀なる学校卒業生はこないから、家庭の事情で上級の学校へ進学できないけれども、人物も良く成績も良い子供を採用した。学問より、人間を尊重したのである。はじめは、小学校を出たばかりの子供を連れてお母さんが会社にこられた。どうかこの子を頼みますと言われたときに、私はそのお母さんに代わってこの子を育てましょうと思って引き受けた。その母の愛を受け継いだ私はこれを実行に移し、それから今日まで、あらゆる場合にあらゆる適切な形で、母の愛を実現した。これが家族温情主義と言われているのである。育てようという子供は辞めさせない。これが首を切らないということになった。もちろん、家庭に出勤簿なんかありえない。労働組合も要らない。子供が妻帯すれば、家賃も嫁の生活費も孫の手当もやることになるから、給料なんかもしぜん生活給となる。お母さんはどこまでもお母さんであって、子供の喜怒哀楽に対しても、お母さんらしくあるようにしているだけのことである。これを要するに、愛情によって人は育つという一言に尽きると思うのである。こういうふうにして、愛情あふるるお母さんが社内に次から次と出来ているわけである。

私は労働組合をもてあましている人々から、どうしたらよいかとその対策を聞かれることがある。もちろん、日本式に愛とか互譲互助の精神、あるいは全体主義等の人間尊重の建て前からいえば、事業経営の上にも労使の対立闘争の姿はありえないものであるが、明治時代に物質文明とともに輸入した個人主義、権利思想の下においては、人間が矛盾性を発揮するから、当然対立闘争となり、労組は出来るのが当然の結果である。であるから、矛盾性を発揮しうる立場にある人が、対立闘争の種子を播いたことは確かである。だいたいにおいて、資本家の横暴搾取が本であり、現代では経営者個人のわがまま、無理解が種子である。善意の資本家や経営者がそのとばっちりを受けているが、これらの会社では立派な労働組合が存在しているのである。組合が出来てから、その後の形は組合が強くなって矛盾性を発揮し、事業の本体を忘れて、横暴、わがままをなしているのをたくさん見受ける。つつしむべきは個人主義、対立闘争の思想である。



出光興産九州支店定礎式の際出席の出光社長（中央）

続 孔大寺山の名の起り

福岡　田中嘉三

宗像君はこの神社に祖神と共に国造りに骨折った少彦名命をも合祀したものである。

宗像神社にできた万葉歌碑に、大伴坂上郎女の。

大汝少彦名の神こそは、名づけそめけめ名のみを、名児山と負ひてわが恋の千里の一重も慰めなくに

の歌の意味は、名児山の峠の上に立って行手を見ると孔大寺の山が聳えている。あの山に祭られた神は大汝少彦名の神であるが、この名児山という山の名もあの国造りの神がつけられたものであろうが云々、と歌のはじめに大汝少彦名といい出した意味を、現地の峠に立って味わなくてはならない。

話は横道にそれたが、兎も角孔大寺宮は当初は、穴太の宮と称していたであろう。いまからその根拠となるものを述べて行く。

日本書紀に

素盞鳴尊は姉神天照大神との誓いによって姉神のお髪の珠を噛み砕いてはき出された霧の中に最初に御生れになった神が天忍穂耳尊、次が天穂日命である。この天穂日命が出雲の臣土師の連等の祖なり、との意味の記事がある。兎も角出雲族はこの天穂日命を自分等の祖神と信じていたし、朝廷をはじめ世間からも認められていた様である。

その天穂日命と穴太とはどんな関係があるかを検討すると、

筑前続風土記拾遺に

雄略天皇十九年三月勅して穴穗（穴太）部を置かる是故に諸国に此名多し。神名式に尾張国葉栗郡穴太部神社といふあり「民部省図帳に尾張国葉栗郡穴太神社、天武三年二月祭之　天穂日命也云々、と見えたり穂日命は宗像に縁あれば孔大寺は此御神ならんか。

孔大は即ち穴太なるべし、昔此社繁昌の時は山中坊舎多かりし今も其跡有。然ればその神宮寺を孔大寺と書てアナホデラといいけんを後に字音にコダイヂといいたりしを直に穴太社といふべきを孔大寺権現と云ひて遂に社号の如くなりしなるべし

太宰府管内誌には

孔大寺と云名正しく寺号の名残と孔大と云名の起りは穴太部などに由ありて負はせたるにあらぬにや

続日本記第五

元明天皇和銅四年閏六月甲子、宗像郡加麻々木に穴太の連の姓を賜ふ

とある。姓とは終戦前の華族の爵位に相当するもので、連は侯爵に当るものである。また姓の上に部属の素性を示す穴太は天ノ穂日命の子孫であることを表わしたものである。

日本に仏教が伝来したのは、欽明天皇の十三年とされているが、これが信仰は皇室や上層階級に限られて、一般民衆は昔ながらの神は道を信じ、民間にどうしても仏教が入らない。

日本の神を否定しては民間に仏教の導入する餘地はない、それで奈良朝には僧行基や、空海によって神仏合体説がとなえられ、神仏は混淆されてしまった。

以上要するに孔大寺の神は穴太の宮と呼んでいた。本地垂迹説が起って穴太の宮の前に神宮寺ができた。この寺の名を穴太寺とすべきであったが、それでは神社とまぎれ易いので、同じ意味の孔大寺と名づけた。それが遂には宮の名まで孔大寺神社となり、後には山の名まで孔大寺山となった、と解する。

孔大寺の宮の祭は今も続いている。

宗像の歴史に興味をもたれる人は、昔の千手堂跡と覚しき地に素焼の土器の破片が広さ五間に十二三間の間に五六寸にも埋もれているのを見ていただきたい。これほどの破片が積るには余程長い年月にかけて盛大な祭典が行われていたことを立証するに足るものと思う。

進路指導の反省

津屋崎中学校長　江口航三

三月二十日公立高校合格者の発表が行われ、すでに決定した者を含めて、二二一名の卒業生の進路が次のように確認された。

一、進学者数　一八二名（全体の八二％）
　公立高校　一二九名
　私立高校　三五名
　各種学校　一八名
二、就職者数　三三名（一五％）
三、その他　六名（三％）

これは概数であるが、これを詳細に分析してみて、進路指導の反省をなし、将来に備えて、所信の一端を述べてみたい。

進路指導を大別すると、進学と就職に分かれるが、これは決して二元的なものでなく、あくまでも、生徒の成長と幸福をはかる教育指導であり、これこそ中学校教育の中核的使命である。こういう場に立って、学級学年の経営、補習教育、進路目標達成のための個別指導等、先生方は涙ぐましいほど力を尽くされた。生徒諸君も、こうした先生方の期待にこたえ、全力を傾注して努力した。家庭もまた挙げて学校の意図するところに協力していただき、私もこの進路指導を最大の目的として全力をあげて来たと自負している。

しかし、その結果、まことにやむを得ないことではあるが、若干の不合格者もあらわれ、人の子の親としての気持はもちろん、教師としても、校長としても、暗い気持が先立つ。

県教育委員会は、公立高校進学者三三％、定時制高校六％、私立高校二一％という目標を示しているが、本校の実際は、高校進学者七四％で、各種学校を含めると八二％強、進学希望者の実数は東京都に匹敵する。その上、地理的条件もあって、福岡市内公立高校希望者が非常に多い。このため、必然的に、その対策として、中学校教育の徹底を期することはもちろんであるが、あらゆる角度から検討して、あえて私は完全教育を重視する。（中略）

就職指導の点においても、また同様であって、個人の適性を考え、就職先の選定をあやまることなきを期し、就職生徒が、永年勤続ができ、そこで社会人としてりっぱな生活者としての道を拓き得るよう、生徒の将来に光明を与えるよう努めなければならない。

三十七年度および三十八年度は、本年度に増して生徒も急増するので、いろいろの意味で困難が予想される。新しく三年に進む者も、一、二年生も、その点十分自覚してもらわねばならぬ。現にそのために、学級学年の経営や学業指導の面で、すべて先生方が心を一つにして万全の方策を立て、日々それを実行に移していただいているが、生徒諸君も、一日も早くめざめて、自己の実力養成に、真剣にとり組んでもらわねばならない。

本校においては、過去も現在においても、この点は今後ともりっぱな伝統を生かすと共に、生徒の個別指導に学級経営に一層力をいたすつもりである。

私共はまた、卒業生の卒業後の補導ということにも非常に重きをおいて来た。

高校へ入学したあとも、あるいは高校を出たあとまでも、または就職して社会人となってまでも、及ぶ限りの声援と助力をおしまずやって来た。卒業生諸君、君達が本校をあとにして、時折り母校をふり返ってみたとき、いつまでも母校が母校として、あたたかく優しく君達の脳裏に映るような、そういうよきこれからの歩みを続けて行っていただきたい。君達のあとには八百の後輩が、君達の学んだ校舎でいっしんに君達のあとを追っていることを忘れないでほしい。教師と生徒というちがいはあったにしても、中学時代の三年間、教育という清い縁に結ばれて来た私達である。君達の一層の奮起と御健康を祈ると共に、私自身も君達の後輩の進路指導に新たな決意を燃やし続けている。

（「望洋」第十四号より）

雑記帳

◇九月の声を聞くと日中はまだ暑いが、朝晩は大分しのぎやすくなる。楠の梢にかかる月も円く美しい。かわずの声が少なくなり虫の交響楽が大勢を占める。

白玉の歯にしみとおるオミキの味が一段と冴え、もののあわれを感じさせる頃と相なる次第……

◇いよいよ秋季大祭が間近に迫った。

この祭はまた宗像放生会とも呼ばれている。

昔からこの放生会は、宗像郡一円の生活の基範であり、又一年中の楽しみでもあった。他の社の放生会はだいぶその形を変えて来たが、宗像放生会は変っていないと参詣の人が云う。たとえ、その姿は変る事があっても、その精神はずっと持ち続けなければなるまい。

◇編輯部の楽しみは、何と云っても食事のひとときの団欒である。この時は身分階級に関係なく好きな席につく、そして食いたいだけパクつく。これが一番よろしい。和気藹々たるところには闘争も悪事もない。これが宗像紙の原動力である。

◇何か一寸した食べ物があるとその所有権はジャンケンで決める習慣がある。誰かがそれを持っている。他の者が「ジャンケンしよう」と云い出すと、その物の所有権はトタンにジャンケンの勝利者のものになる、という結構な？仕組みである。勝負の世界はきびしい。たとえ飴玉一個でも、それを取り囲んでジャンケンをする連中の目付は鋭い。問題は既に飴玉を離れてしまい、ジャンケンの勝負の事に移っているからである。

勝った者の凄く満足そうな顔、それにひきかえ負けた者の地踏駄ふんで口惜しがる悲壮な顔付が対象的で面白い。正に「勝負の世界はきびしい」。

大の男達が血相変えて（少し表現オーバーかな）真剣勝負のジャンケンをやっている図を御想像願いたい。何処かでジャンケンの声がすると、何処にひそんでいたか所在の知れなかった者までが、それこそいずこともなく拳又は鉄をふり上げてその勝負に加わるべく生命がけで殺到する、というのだからすさまじい。まさに「お見事」という外はない。

◇妙齢の御婦人、年の頃は二十前後、割に小柄な身体つき、目元に何ともいえぬ愛嬌のある御婦人が参拝した。その後社務所前の蘇鉄をバックにして記念撮影をしたいからシャッターを押してほしいと申し込まれた。と、「それは私が」と馳け出したのは独身のXとY両部員である。「右を向いて、左を向いて、もう一寸笑って」等と、日頃の腕前？の手前もあってかファインダーをのぞく彼氏等のフルマイは相当なものである。撮影がすむと、こっちから申し出て大社の案内と説明をかって出た。立て板に水を流すがごとくそれが続く。そしてそれが済むと「どうぞこちらへ」と鄭重に休憩所に案内して、お茶を出すやら西瓜を出すやら、誠に涙ぐましい程の親切である。他の者達（既婚者連中）がこれを見て驚いた。これ程親切な社頭案内は前代未聞である。あいつら気でも狂ったのではあるまいか、などといっているのを知ってか知らずてか、にこにこと笑顔で対談をしている。「青春、とはああいったものかねえ」「あれにはジャンケンは通用しないねえ」という岡焼き連中の嘆息とは相成ったのである。

◇コレラ騒ぎで今年の宗像海岸は淋しかった。八月の初め迄に大急ぎで間に合わせて海水浴客を迎えようとした某商人、これ亦慌てて施工を中止にしたものの、それ迄の損害を誰かに振り替えようとして足掻いているとかいう噂。余りカッコイイざまではないねえ。

◇つくつく法師が啼き出した。秋だ、少し頭を冷やした方がいいと思う。ついでに緩んだ褌も引き締めなくちゃね。